

第3回米国災害保健医学会で講演し、病院船を見学しました（2017/9/27-29）

テーマ：グローバルヘルスセキュリティ

会場：マリオットホテルニューポートニュース（アメリカ合衆国）

2017年9月27-29日（水一金）にて開催された第3回米国災害保健医学会(Society of Disaster Medicine and Public Health)で江川新一教授が招待講演を行いました。医師、看護師、獣医師、歯科医師、科学者、企業、行政、軍、市民など分野を越えて多面的な参加者による災害保健医療の学術集会です。第3回の会場となったヴァージニア州は、全米のなかでも災害医療に対する先進的な取り組みをしています。その背景には911テロリズム災害、ハリケーン Sandy などをはじめとする災害の経験とともに、米軍基地を抱えており市民の防災・救援への意識が高いことがあげられます。また、保健医療行政も防災に積極的に取り組んでいます。911のあとに、全米の州ごとに組織化された災害医療ボランティア(Medical Reserve Corps: MRC)の中でもヴァージニア州はトップレベルの訓練と活動を行っています。

テキサス州ヒューストンに大きな被害を与えたハリケーン Harvey に対して Dallas 市では、あらかじめ用意された巨大な避難所に3800名もの避難者を受け入れ、診療所も開設して対応したことも報告されました。2008年のハリケーン Katrina 以降、このような大規模避難所を運用する体制になっているとのこと。米国でも住民の半分がなんらかの慢性疾患を有する高齢化が進んでおり、外傷だけではなく高齢者、母子保健、メンタルヘルスなどに対応できる診療所が23日間にわたって開設されたことは特筆に値します。

2017年9月にはメキシコ湾で Harvey, Irma, Maria と続けざまに巨大なハリケーンが発生し、カリブ海諸国とテキサス州が大きな被害を受けました。開催地の Newport News からは、ハリケーン Maria で全島の建物の大部分の屋根が飛ばされるなどして甚大な被害を受けた米国領 Puerto Rico への支援に向かうため、学会に参加することができない演者が出た一方で、まさに出航の準備をしている病院船 Comfort を見学する機会にも恵まれました。Comfort は250床の一般病床、15の手術室、40床の集中治療室、90名の乗組員、1000名を超える医療従事者が乗り込み、脳外科の専門的な手術ができない以外は通常の病院と変わらない医療を実施することができ、30日間は燃料・食料・薬剤などの補給なしに活動できる能力を備えています。これまでも多くの災害救援に出動しており、また、派遣先の保健医療の向上にも寄与しています。艦長・医療長から施設説明を受けながら、救援活動のために数多くのスタッフがまさに乗船手続き、搬入など準備をしている緊迫状態を目の当たりにすることができました。Puerto Rico まで4日ほどで到着し、約3週間滞在する見通しとのこと。Puerto Rico では、医療機関も含めて大規模な停電が継続しており、復旧・復興には多大な時間を要する可能性があります。災害における健康被害をどのように最小限にいとどめ、さらに Build Back Better として良好な保健医療体制を築き直すのかが問われています。

江川新一教授は、“Health Security in Pacific Basin”と題して招待講演を行い、仙台防災枠組、持続可能な開発目標、気候変動の国際枠組のもつ意義、災害リスク減少のために果たす保健医療クラスターの役割、アジアで ASEAN 地域の災害医療体制の向上と標準化をめざす ARCH プロジェクトの取り組みなどを紹介し、健康で長寿な社会を築くことが災害に対するレジリエンスとなることを提言しました。

国際的に自然災害も脅威を増し、平和を脅かす緊張も高まっています。ハザードも多様化するとともに、被害も複雑化します。新興感染症の多くは人獣共通感染症であり、核・放射線災害は放射能と爆発による熱風からどのように命を守ったらよいかをよく理解しておく必要があります。病院などの社会的に重要なインフラを災害から守ることは仙台防災枠組の7つの目標の1つです。全米科学技術医学アカデミーでは、東日本大震災やハリケーンで数多くの研究室が貴重なデータや資源を失ったことを繰り返さないために、すべての研究機関が防災に取り組むことが提言され

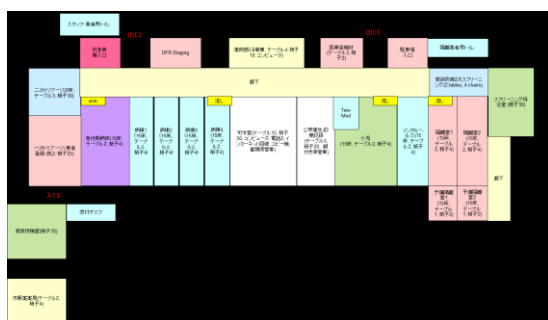
たそうです。防災は誰かがやってくれるだろうではなく、私たちの日常の取り組みとして実践していきましょう。



講演する江川新一教授



ハリケーン Harvey に備えて 5000 人分の簡易ベッドが用意されたダラス市コンベンションセンターの様子



避難所内診療所のレイアウト



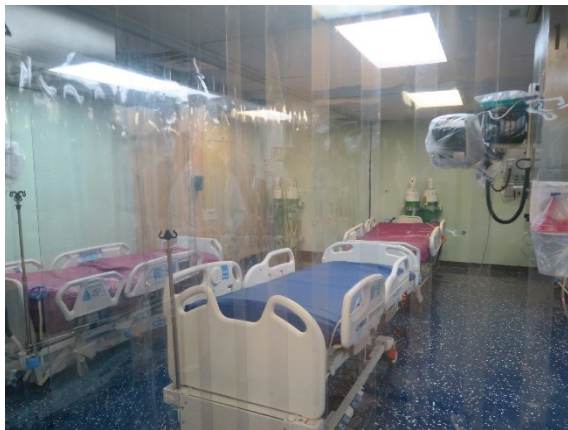
ハリケーンにより甚大な被害を受けた米領プエルトリコに向かう病院船 Comfort



病院船と今回のミッションについて説明する艦長



最初の患者受け入れ場所となる救急室
すべてが揺れても破損しないように固定され、床に段差を設けて洗浄液や血液など汚染が拡がらないよう工夫されている



集中治療室のひとつは感染症の隔離室専用として想定されている



腹腔鏡手術の器材も複数装備されており、床に固定されている。器材の滅菌は常時可能で、継続的に多数の手術ができる。



これまでに Comfort が果たしたミッション



見学者の横で続々乗り込んでいく支援要員たち
文責：江川新一（災害医学研究部門）